

上坂原子力委員会委員長の海外出張報告

令和4年11月4日

1. 出張先

オーストリア共和国（ウィーン）

2. 出張期間

令和4年9月24日（土）～29日（木）

3. 渡航目的

ウィーンで開催される第66回国際原子力機関（IAEA）総会に政府代表として出席し、IAEAの幹部、各国の原子力関係者との意見交換を行うとともに、内閣府主催のサイドイベントに登壇する。

4. 主要日程

9月24日（土）東京発

25日（日）（ヘルシンキ経由）ウィーン着

26日（月）～28日（水）

IAEA総会出席及び各国原子力部門要人やIAEA事務局幹部との会談

サイドイベントへの登壇

RCA50周年会合演説

展示ブース開所式

日本政府代表・政府主催会合

ウィーン発（アムステルダム・ロンドン経由）

29日（木）東京着

5. IAEA総会

第66回総会は、イタリアのアレッサンドロ・コルテーゼ氏を議長に選定して開催された。

グロッシー事務局長が、

✓ セントクリストファー・ネービス及びトンガの新規加盟及びIAEA加盟国が合

計175か国となることを歓迎

- ✓ ウクライナのザポリヅヤ原子力発電所へのIAEAの支援・援助を実施
- ✓ Rays of Hope（放射線がん治療・診断に関するイニシアチブ）の立ち上げに言及するとともに各国の支援を奨励
- ✓ ZODIAC（統合的人畜共通感染症行動）イニシアチブ支援を奨励
- ✓ 原子力エネルギーが気候変動の解決策の一部である必要があり、そのためのIAEAの取組の必要性を強調
- ✓ 日本政府が計画している東電福島第一原子力発電所のALPS処理水の放出に関するIAEAのレビューは、大きな進展を見せたこと、IAEAが日本に対して、ALPS処理水の放出前、放出中、放出後におけるレビューをしていく旨等の表明を行った。

国連事務総長のメッセージが紹介されたのち、各国の一般討論演説が行われた。日本は高市早苗内閣府特命担当大臣（科学技術政策）が、NPT運用検討会議、ウクライナの原子力施設、原子力の平和的利用、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉・ALPS処理水の取扱い、核不拡散（北朝鮮の核問題・イラン核合意）、ジェンダー平等等について、ビデオ録画にて演説を行った。

各国の演説原稿はIAEAのホームページに掲載されている。

6. IAEA総会期間中のバイ会談

【政府代表として実施】

（1）IAEA グロッシー事務局長

- ・ 上坂委員長より、グロッシー事務局長の強いリーダーシップへの敬意とIAEAの取組への支持を表明
- ・ 上坂委員長より、日本の原子力の政策の現況について紹介するとともに、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水の取扱いに関するIAEAからの多大なる協力への感謝、ウクライナの原子力施設の安全性確保に向けたIAEAの取組を引き続き後押しするなど、日本政府とIAEAとの間で引き続き協力を進めていく必要性等について発言。また、岡山大学のIAEA協働センター指定と今後への期待表明、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、原子力白書の紹介等を行った。
- ・ 上坂委員長とグロッシー事務局長の間で、ALPS処理水や放射線医療分野での協力など日IAEA関係の強化に向けた具体的方策について意見交換を行い、引き続き協力を行うことで一致した。

（2）米国 フルービー国家核安全保障庁長官

- ・上坂委員長より、日米両国は原子力の平和的利用、核不拡散及び核セキュリティ分野におけるパートナーとして世界をリードしていること、日米原子力協定は日米原子力協力の基盤をなすものであり、引き続き緊密に連携していくことが重要である旨の発言を行った。また、日本の原子力政策の現況、ALPS処理水の取扱いについて説明するとともに、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、原子力白書の紹介等を行った。
- ・上坂委員長とフルービー長官との間で、核不拡散及び核セキュリティ分野での日米協力、クリーンエネルギー技術などについて意見交換を行い、両国の協力関係を一層強化することで一致した。

(3) 仏国 ジャック原子力・代替エネルギー長官

- ・上坂委員長より、日仏両国は核燃料サイクル政策を掲げ、核不拡散体制の強化及び原子力の平和的利用のため、長期にわたり協力関係を構築してきた旨言及。また、日本の原子力政策の現況、ALPS処理水の取扱いについて説明するとともに、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、EUの日本産食品に対する放射性物質輸入規制への働きかけの協力依頼、原子力白書の紹介等を行った。
- ・上坂委員長とジャック長官との間で、両国間の原子力協力、特に核燃料サイクルに関する協力や年明けに予定されている日仏原子力委員会に向けた対応などについて意見交換を行い、当該分野における両国間のパートナーシップを更に拡大していくことで一致した。

(4) 独国 ティドゥ環境・自然保護・原子力安全・消費者保護事務次官

- ・上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、ALPS処理水の取扱いについて説明するとともに、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、EUの日本産食品に対する放射性物質輸入規制への働きかけの協力依頼、原子力白書の紹介等を行った。
- ・上坂委員長とティドゥ次官の間で、両国間のカーボンニュートラルに向けた政策について意見交換を行った。

(5) 英国 ヘファービジネス・エネルギー・産業戦略省原子力・インフラ・廃炉局長

- ・上坂委員長より、日英両国は核不拡散体制の強化及び原子力の平和的利用のため、長期にわたり協力関係を構築していることや、昨年改訂の日英原子力協定の発効を歓迎する旨について言及。また、日本の原子力政策の現況、A

L P S 処理水の取扱いについて説明するとともに、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、原子力白書の紹介等を行った。

- ・上坂委員長とヘファー局長の間で両国間の原子力協力について意見交換を行い、両国間のパートナーシップをさらに拡大していくことで一致した。

(6) アルゼンチン セルキス国家原子力委員会委員長

- ・上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、A L P S 処理水の取扱いについて説明するとともに、日本の医療用等ラジオアイソトープに関する政策の紹介、原子力白書の紹介等を行った。
- ・上坂委員長とセルキス委員長の間で、両国間のカーボンニュートラルに向けた政策について意見交換を行った。

【原子力委員長の職務として実施】

(7) I A E A 原子力エネルギー局 デス・クロイツァックス原子力発電部長

- ・上坂委員長より、SMR（小型モジュール炉）をはじめとする革新炉に関する国際連携について、I A E A がリードしていく必要性について説明し、デス・クロイツァックス部長よりしっかり取り組んでいく旨の応答があった。

(8) I A E A 原子力科学・応用局 モクタール事務次長

- ・上坂委員長より、医療用ラジオアイソトープに関するサイドイベントへの協力に対し、感謝の意を述べた。
- ・上坂委員長とモクタール事務次長との間で、医療用ラジオアイソトープの製造・医療応用の国際連携推進方策について意見交換を行った。

7. その他

- ・原子力科学技術に関する研究、開発及び訓練のための地域協力協定（Regional-Cooperative Agreement for Research, Development and Training Related to Nuclear Science and Technology: R C A）設立50周年に際する閣僚級会合が開催され、上坂委員長がカントリー・キーノート・スピーチを行った。
- ・上坂委員長及び引原ウィーン代表部大使が主催し、日本の東電福島第一原発における廃炉・A L P S 処理水の取扱いや、福島国際研究教育機構構想等について、I A E A 及び各国高官に紹介を行う会合が開催された。

以上